

# YAMAHA

## MIDI DATA FILER

# MDF2

ビギナーズ ガイド



# C O N T E N T S

はじめに .....	1
<b>1章</b> MDF2ってどんなことができるの? .....	2
<b>2章</b> キーの名称とモードについて .....	4
◆MDF2の4つのモードとモードの選び方について .....	4
◆[REC], [PAUSE], [START/STOP] キーについて .....	5
◆[CURSOR], [FILE DATA] キーについて .....	6
◆リアハネルの各種端子について .....	7
◆フロッピーディスクドライブについて .....	7
◆フロッピーディスクの種類と扱い方について .....	8
<b>3章</b> QY10のデータをMDF2に保存しよう .....	10
◆フロッピーディスクをフォーマットする .....	10
◆MIDIケーブルをつなぐ .....	12
◆MDRモードに入る .....	13
◆MDF2を受信状態にする .....	14
◆QY10からバルクデータを送る .....	15
◆受信の終了 .....	18
◆バルクダンフのまとめ .....	18
◆ファイル名を自分でつける .....	19
<b>4章</b> 保存したデータをQY10に送り返す .....	22
◆MIDIケーブルをつなぐ .....	22
◆送信するファイルを選ぶ .....	22
◆QY10にバルクデータを受け取る設定にする .....	23
◆MDF2からバルクデータを送る .....	24
◆不用になったファイルを消す .....	25
<b>5章</b> ピアノプレーヤ用ソフトを演奏する .....	27
◆MIDIケーブルをつなぐ .....	27
◆演奏の開始 .....	27
◆音色の設定 .....	29
最後に .....	30

## はじめに

本書は、根っからのアナログ人間を自称する「鈴木さん」が、QY10のソング・パターンを保存するためにMDF2を購入してから使いこなせるようになるまでの奮闘記です。

鈴木さんをやさしく指導するのは、A楽器店でデジタルを担当している「美穂ちゃん」です。美穂ちゃんは、バンドのキーボードをやっていてシンセサイザーの使いこなしにはちょっと自信があります。

MIDI端子やフロッピーディスクもよく知らないという鈴木さんでも、最後には基本的な使い方はマスターできました。皆さんも鈴木さんと競争してMDF2を使いこなしてください。

本書は初めから順に、鈴木さんと一緒に本体を操作しながら読み進んでいってください。2度目からは、CONTENTSを参考にして知りたい所だけを読んでください。その時、分からないところがあれば、そのつど少し前に戻って復習をするようにしてください。

それでは、どうか鈴木さんに負けないようにがんばってください。





# MDF2って どんなことができるの？



美穂 こんにちは、美穂です。今日から鈴木さんにMDF2の使い方をお教えすることになりました。

ちょっと緊張しているけど、がんばって分かりやすくご説明するつもりです。

じゃあ、MDF2でどんなことができるのかっていう話から始めましょうか。

鈴木 ええ。まず、QY10のソングデータが保存できるのですね。

美穂 そうです。それが、言ってみればMDF2の1番目の特長です。QY10のパターン、ソングデータを始め、B500のボイスやソングのデータ、RY30のパターンやソングのデータ、TG77のボイスやマルチのデータなど、MIDIのデータなら何でも取り込んでフロッピーディスクに保存します。

鈴木 その仕組みがよく分からないのですが。

美穂 QY10のようにMIDI端子を持っている楽器は、本体内のソングやパターンのデータをバルクデータという形にしてMIDI端子から出せるようになっています。バルクデータっていうのは、ソングやパターンのデータが入った小包みたいなものです。MDF2は、そのバルクデータっていう小包を受け取って、フロッピーディスクに記録する働きをします。

次にMDF2の2番目の特長として、MDF2はESEQファイルやスタンダードMIDIファイルで記録された演奏データを再生できるシーケンサーとしても働きます。

鈴木 どういう事ですか。

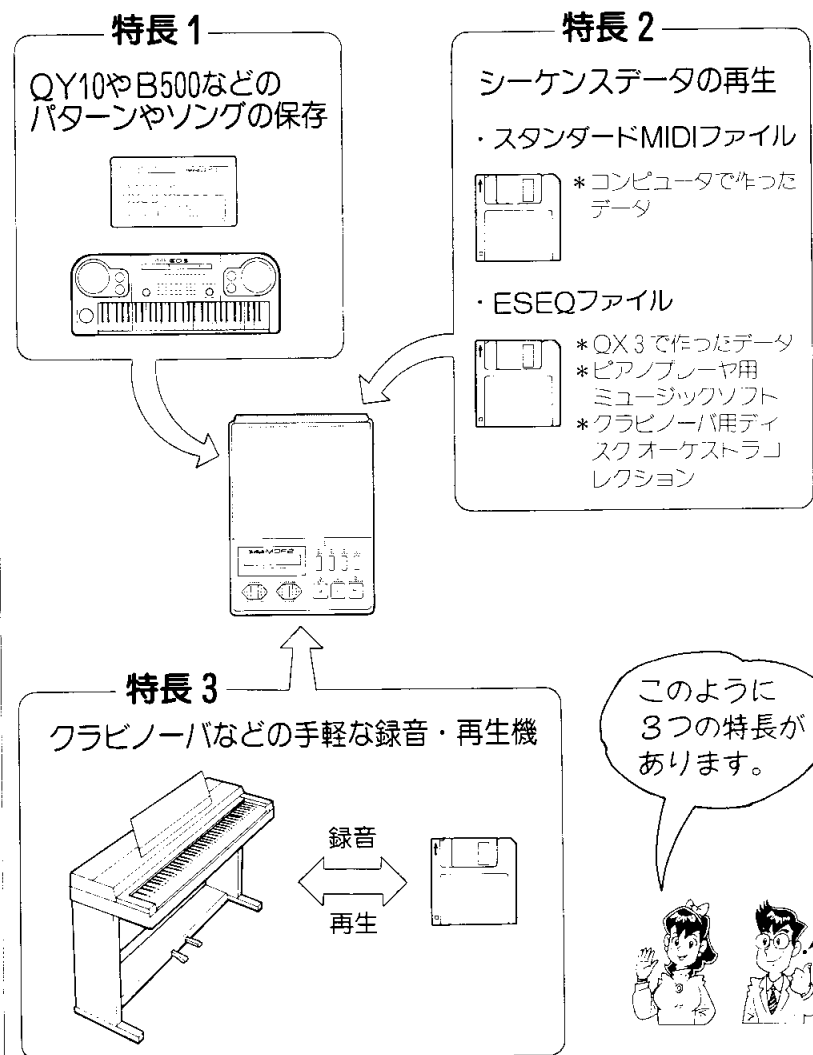
美穂 つまり、いろいろなシーケンサーや、コンピュータで作った曲を再生できるっていうことです。たとえば、ESEQファイルというのはQX3で作った曲の演奏データや、ピアノプレーヤ用のミュージックソフト、クラビノーバのディスクオーケストラコレクションなどの記録方式のことです。ですから、それらのソフトがほとんど再生できるんです。その上、スタンダードMIDIファイルという、多くのコンピュータ用シーケンスソフトで使っている記録方式にも対応しています。ですから、たとえば自宅ではコンピュータを使って音楽制作をし、完成した曲をステージでMDF2を使って演奏する、といった使い方が可能です。

鈴木 ところで、シーケンサー機能を使って演奏を録音することはできな

いのですか。

美穂 もちろん録音もできます。これがMDF2の3番目の特長です。ほとんどテープレコーダ感覚で録音ができ、録音できる音の数もQX3の約3倍なので、ポータブルピアノやクラビノーバの演奏を録音するにはぴったりです。でも、編集機能は付いていないので、これ一台で曲を作るっていうのは難しいですね。

鈴木 よく分かりました。やはりまず、1番目の使い方をマスターしたいです。2番目の特長は知らなかったのですがとても便利そうですね。特に、ピアノプレーヤ用のミュージックディスクが再生できるっていうのが気に入りました。また、ディスクを買って再生してみます。





## キーの名称とモードについて



美穂 今日からMDF2の扱い方でしたね。じゃ、まず本体に付属していたアルカリ電池をセットして、電源スイッチをONにしてください。

鈴木 あれれ、画面に [! No disk] という表示が出てきましたよ。

美穂 そう、これは「フロッピーディスクが入っていません」という表示です。MDF2はフロッピーディスクがないと、MIDIデータファイラーとしてもシーケンサーとしてもまったく機能しません。でも、今はキーの働きとモードの説明をするだけだから、この表示は気にしないでください。

### MDF2の4つのモードとモードの選び方について

美穂 始めにMDF2のキーの名前とモードについて説明します。

鈴木 モードって言うのは、QY10のパターンモードとかソングモードみたいなものですね。

美穂 そうそう。MDF2の機能や操作をいくつかに分けて区別しているってわけ。MDF2では、4つのモードがあります。

#### 《MDF2のモード》

##### ①MDR(エムディーアール)モード

……MIDI機器のハルクデータを受信してフロッピーディスクに保存したり、またMIDI機器に送り返したりするモードです。

##### ②SEQ(シーク)モード

……MIDI機器の演奏を録音・再生するモード。また、スタンダードMIDIファイルやESEQファイル形式のデータも再生します。

##### ③JOB(ジョブ)モード

……SEQモードにおける便利機能の設定を行います。

##### ④UTILITY(ユーティリティ)モード

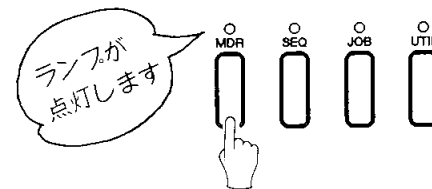
……フロッピーディスクの操作に関するコマンドが集まっているモードです。

鈴木 モードを切り替えると機能ががらりと変わるというわけですね。

美穂 そうです。じゃ、それぞれのモードへの入り方は分かるかしら。

鈴木 うん、これは簡単ですね。それぞれ、[MDR] [SEQ] [JOB] [UTIL] っていうキーを押せばいいんでしょう。

美穂 そうです。その4つのキーをモードキーと呼んでいます。キーを押してモードに入ると、それぞれのキーの上のランプが点灯しますので確認してください。

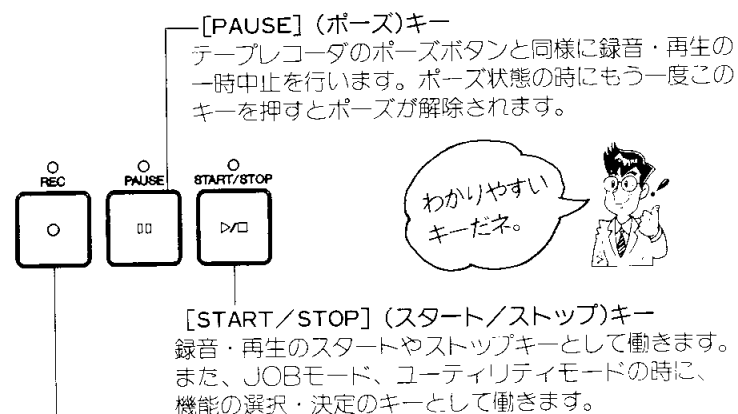


### [REC] [PAUSE] [START/STOP] キーについて

鈴木 少し大きめの四角いキーが3つ並んでいますね。ちょっとテープレコーダのボタンと似ているけど。

美穂 そうですね。機能的にはテープレコーダのボタンとほとんど同じです。

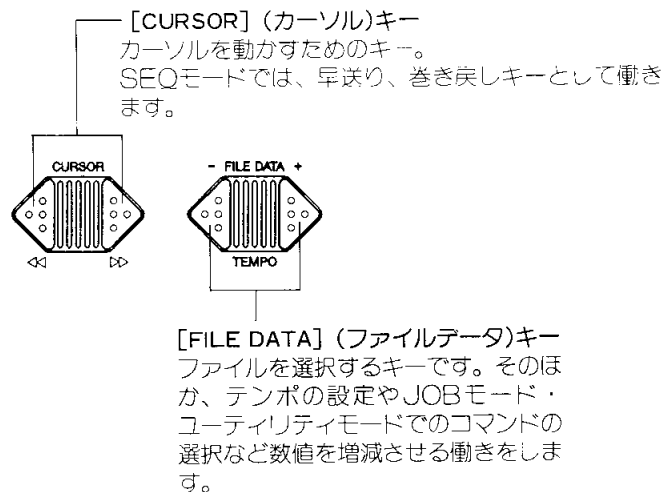
鈴木 このキーは感覚的に分かりやすいですね。



[REC] (レック)キー  
MDRモード、SEQモードの時に、このキーを押しながら [START/STOP] キーを押すことで録音を始めます。

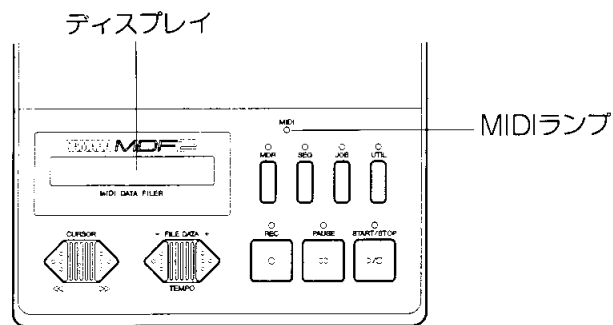
## [CURSOR] [FILE DATA] キーについて

美穂 次に、三角形のカーソルキーとデータキーを説明します。



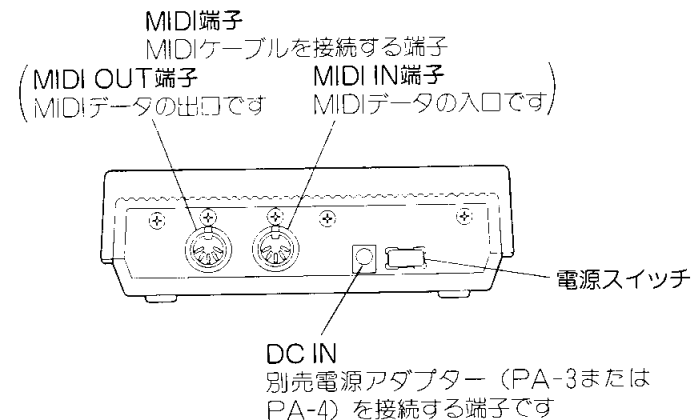
鈴木 カーソルとかファイルとか、はじめてきく言葉がいくつかあります。

美穂 それらの言葉は後で説明しますので、今はとりあえずキーの名前と場所だけしっかり覚えてください。それから、キーではありませんが、文字が表示される画面のことをディスプレイといいます。また、モードキーの上にMIDIランプがあります。これは、MIDIのIN端子からMIDIデータが入ってくると点灯します。



## リアパネルの各種端子について

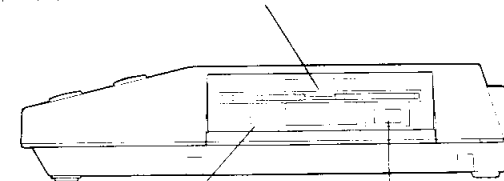
美穂 次に、MDF2のリアパネルをみてください。



## フロッピーディスクドライブについて

美穂 右側の側面には、フロッピーディスクドライブがあります。

フロッピーディスクドライブ  
ここにフロッピーディスクをゆっくり差し込みます。カチャッという音がして、ディスクが全部ドライブの中に入ってしまいうまで軽く押ししてください。



ディスク取り出しボタン  
このボタンをゆっくり、確実に押してディスクを取り出します。

ビジーランプ  
ドライブが作動中は、このランプが点灯します。

点灯中はディスクが壊れる場合がありますので、絶対にディスクを取り出さないで下さい。



## フロッピーディスクの種類と扱い方について

鈴木 フロッピーディスクの種類や扱い方について教えてください。

美穂 MDF2は、フロッピーディスクがなければ録音も再生も何にもできなくなってしまうから、次の事だけは覚えててください。

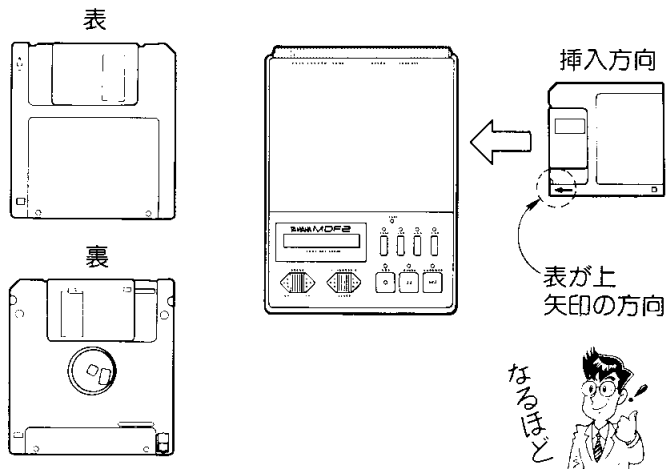
### ①フロッピーディスクについて

#### ①フロッピーディスクの種類について

フロッピーディスクは大きさと記憶容量で種類分けされています。

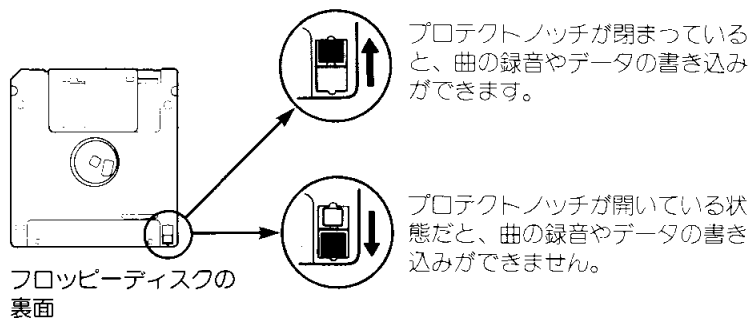
MDF2で使用できるのは、3.5インチ2DDのフロッピーディスクです。MF2DDという規格名で呼ぶこともあります。

#### ②フロッピーディスクの表、裏、挿入方向について



#### ③プロテクトノッチについて

フロッピーディスクには、ちょうどカセットテープのつめと同じ役目をするプロテクトノッチがあります。



#### ④フロッピーディスクを扱う時の注意

- フロッピーディスクには、決して磁石を近づけないようにしてください。保存したデータが消えてしまう場合があります。また、テレビやスピーカーなど、磁力を出す製品の近くには置かないでください。
- フロッピーディスクは、ホコリ、物理的な衝撃、水分、温度などに対してかなりデリケートな製品です。神経質になることはありませんが、なるべくいねいにあつかうようにしてください。
- フロッピーディスクドライブからディスクを取り出すときは、必ずビジーランプが消えていることを確認してください。ビジーランプが点灯中に無理にディスクを取り出すと、そのフロッピーディスクが使えなくなる上に、本体のドライブも破損する場合があります。また、MDF2は録音・再生中は頻繁にビジーランプが点灯しています。ですから、録音・再生中には決してディスクを取り出さないように注意してください。





## QY10のデータを MDF2に保存しよう



美穂 じゃあ、いよいよMDF2の操作に入りましょう。

鈴木 まず、QY10のデータをMDF2で保存する操作を教えてください。

美穂 そういえば鈴木さんの一番の目的はそれでしたね。では、QY10のデータをMDF2で保存する方法を順番に説明していきます。まず、QY10とMDF2、それからMIDIケーブルとフロッピーディスクを用意してください。

鈴木 MIDIケーブルとフロッピーディスクは、MDF2の付属品でいいですか。

美穂 もちろん。

### フロッピーディスクをフォーマットする

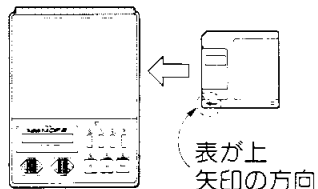
美穂 ではまず、フロッピーディスクのフォーマットから始めましょう。

鈴木 フォーマットというのは？

美穂 新しいフロッピーディスクをMDF2で使えるようにすることです。分かりやすく言うと、フロッピーディスクの中をMDF2のデータに合わせていくつもの部屋に仕切る作業です。ですから、同じディスクに対しては最初に一度だけフォーマットをすればいいわけです。同じディスクを2度目に使う時は、フォーマットの作業はしないで次の「◆MIDIケーブルをつなぐ」(P12)から作業を行ってください。

#### フォーマットの手順

- ①まず、MDF2の電源スイッチをONにします。
- ②フロッピーディスクをドライブに挿入します。  
方向を間違えないようにね。

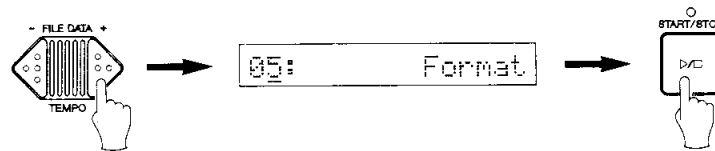


- ③次に [UTIL] キーを押して、ユーティリティモードに入ります。

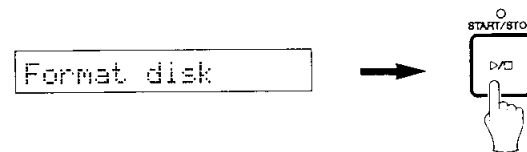


④フォーマットの画面を出します。

[FILE DATA] キーを何度か押して、ディスプレイが下記の表示になれば [START/STOP] キーを押します。



⑤フォーマットの画面が呼び出されると、[START/STOP] キーの上のランプが点滅します。ここで、ディスクが間違いなくセットされていることを確認し、[START/STOP] キーを押します。



⑥フォーマットが始まると、`Formatting ***%` という表示になり、フォーマットの進み具合を現す数字が出てきます。この時、[START/STOP] キーの上のランプは点灯に変わります。

フォーマットが終了すると、[START/STOP] キーの上のランプは再び点滅を始め、ディスプレイは④のフォーマットの画面に戻ります。

⑦ [MDR] キーを押して、フォーマットの画面からぬけます。



美穂 さあ、フォーマットはできましたか。

鈴木 ええ。この時、もし間違えて大切なデータを記録しているディスクをフォーマットしてしまったらどうなります？

美穂 私も何度かやっちゃったことがあるんですが、それまで入っていたデータは跡形もなく消えちゃいます。たいてい、ハッと気付いたときにはもう遅いんですね。

鈴木 それは、チェックが必要ですね。



## Check!

- 新しいフロッピーディスクを使うときは、まずフォーマットをしなければいけません。
- データの入っているフロッピーディスクをフォーマットすると、全てのデータは消えてしまいます。

## MIDIケーブルをつなぐ

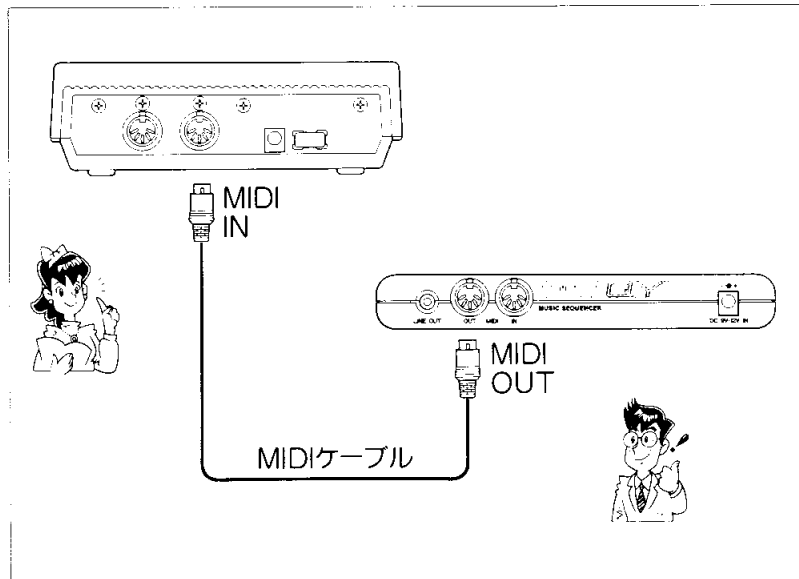
美穂 フォーマットができれば、MIDIケーブルをつなぎましょう。

鈴木 このケーブルを通してMIDIのデータをやり取りするんですね。

美穂 そうです。どちらの機器からどちらの機器にデータを送るのかをよく考えて、ケーブルをつなぐMIDI端子を選んでください。[MIDI OUT] 端子はデータが出ていく端子で、[MIDI IN] 端子はデータが入ってくる端子です。出口と入口がきちんと分けられているというわけなんです。

鈴木 ということは、今はQY10からMDF2にデータを送るわけだから、QY10の [MIDI OUT] からMDF2の [MIDI IN] へMIDIケーブルをつなげばいいわけですね。

美穂 そうです。ね、MIDIなんて簡単でしょう。



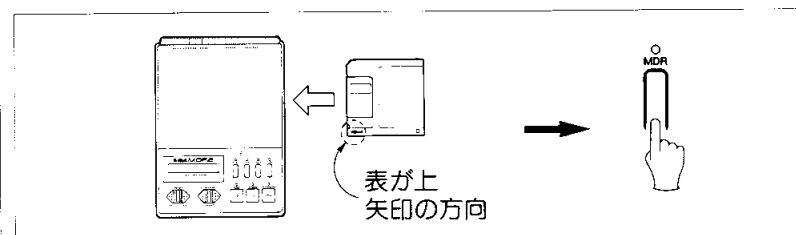
## MDRモードに入る

美穂 さあ、準備ができたので、いよいよQY10のデータを取り込みましょう。さて、ここで問題です。バルクデータを取り込む作業は、どのモードで行うのでしょうか？

[参照 4 ページ]

鈴木 えーっと、モードは全部で4つあって (MDR、SEQ、ジョブ、ユーティリティ)、その中でMIDI機器のバルクデータが記録できるのは、そうそうMDRモードですね。

美穂 そうです。では、[MDR] キーを押してMDRモードに入ってください。この時、フロッピーディスクがドライブに入っていないと **[! No disk]** という表示が出ます。この表示が出たら、フロッピーディスクをセットしてもう一度 [MDR] キーを押してください。



鈴木 [MDR] キーを押してMDRモードに入ると、ディスプレイの表示はこのようになりました。 **01**

美穂 ここに出てきた数字を、ファイル番号と呼びます。ファイル番号は、[FILE DATA] キーを押すと01~99まで変わります。

鈴木 ファイルってなんですか？

美穂 ファイルとはデータが入るための部屋のようなもので、ファイル番号はちょうどその部屋の部屋番号にあたるんです。

鈴木 では、今のディスプレイの表示で、ファイル番号の右側が空白になっているのは？

美穂 ここには、ファイル名といってそれぞれのファイルにつけられた名前が表示されます。たとえば言うと、ファイル名とは、ファイルという部屋にかかっている表札のようなものだと考えて下さい。ここが空白になっているのは、このファイルには何もデータが入っていないためです。

鈴木 わかりました、このフロッピーディスクはフォーマットしたばかりなので全てのファイルがからっぽなのですね。



美穂 ええ。そうなんですが、もしいくつもデータを記録したフロッピーディスクに新たにデータを記録するときには、必ずファイル名が空白になっている空のファイルを選んでおいてください。

鈴木 どうして？

美穂 データの入っているファイルが選ばれている時に新たに別のデータを記録すると、以前入っていたデータは消されて、新しく書きかえられてしまうのです。

鈴木 それはまずい、これも要チェックですね。



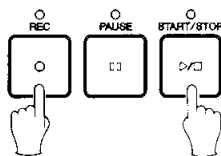
**Check!**

- データを記録する時には、ファイル名が空白になっている空のファイルを選びましょう。

**MDF2を受信状態にする**

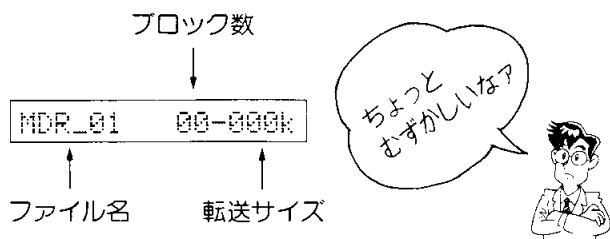
美穂 それでは、MDF2をレコーディング状態にしましょう。

鈴木 [REC] キーを押しながら [START/STOP] キーでしたね。



押しながら

美穂 この時、ディスクのプロテクトノッチが開いていると **! Disk Protect** という表示が出ます。この表示が出たら、一度ディスクを取り出してプロテクトノッチを閉めてください。[参照 8 ページ] レコーディング状態になると、ディスプレイは下図の表示になります。

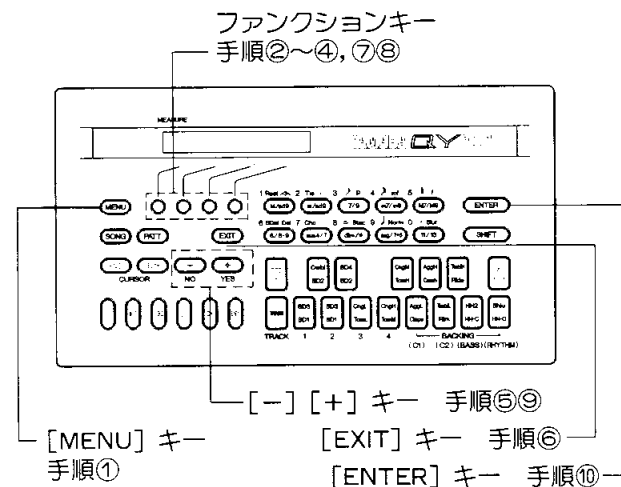


- 空白だったファイル名に、レコーディング状態に入ったところで自動的に名前がつけられました。このファイル名は、MDRモードのファイル番号01のファイルということを表しています。
- バルクデータは一度に複数送られて来ることがあります。その時、個々のバルクデータをブロックといい、送られてきたブロックの数をブロック数といいます。
- 転送サイズとは送られてきたバルクデータの大きさをあらわしています。単位は、Kバイトで、フォーマットしたばかりのディスクでは最大600 Kバイトのバルクファイルを作成することができます。

**QY10からバルクデータを送る**

美穂 これで、MDF2はレコーディング状態になったので、いよいよQY10からバルクデータを送りましょう。  
(QY10以外の機種をお持ちの方は、この部分だけ別紙のクイックガイドを参照してください)

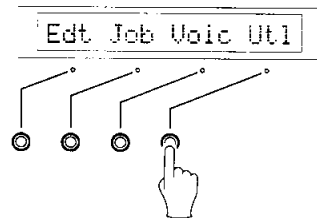
**QY10からバルクデータを送る**



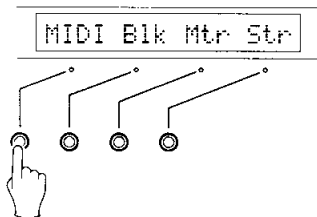
①ソングモードかパターンモードの状態  
[MENU] キーを押します。



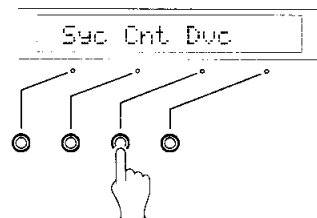
②ディスプレイが下記の表示になったら、一番右のファンクションキーを押して、ユーティリティに入ります。



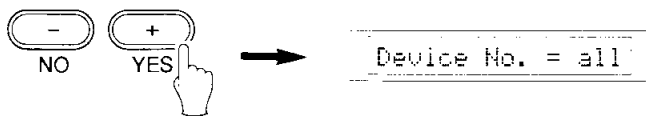
③ディスプレイが下記の表示になったら、一番左のファンクションキーを押して、MIDIのセットアップに入ります。



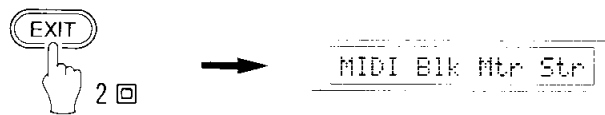
④ディスプレイが下記の表示になったら、左から3番目のファンクションキーを押して、デバイスナンバーの設定画面に入ります。



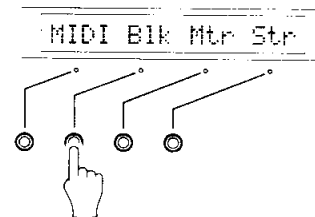
⑤ここで、[+] キーを押して、デバイスナンバーを [all] という設定にしてください。



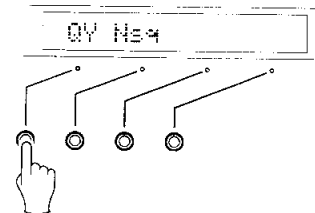
⑥デバイスナンバーの設定が終われば [EXIT] キーを2回押して、下記の表示に戻ります。



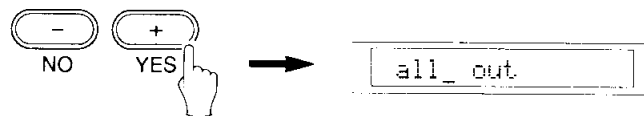
⑦ディスプレイが下記の表示になったら、左から2番目のファンクションキーを押して、バルクダンプの画面に入ります。



⑧ディスプレイが下記の表示になったら、一番左のファンクションキーを押して、QY形式でバルクを送るモードに入ります。



⑨送信するバルクデータの種類を選ぶ画面が出てきます。[+] キーを押して、送信するバルクの種類を選びます。選べるのはソング1~8とallという設定ですが、ここでは必ず [all] に設定してください。



⑩さあ、いよいよ送信です。[ENTER] キーを押し、[all out Sure?] という表示になれば [+] キーを押してください。ディスプレイが [Transmitting!] という表示になり、データの送信を始めます。



この時、MDF2のMIDIランプに注意してください。MDF2がバルクデータを受け取ると、MIDIランプが点灯します。(複数のブロックを受け取るとランプは点滅します。)もしMIDIランプが消えたままだと、どこかの手順が間違っています。まず、MIDIの結線が間違っていないか確認して、もう一度①からやり直してください。

## 受信の終了

鈴木 QY10のディスプレイが all Completed! という表示になり、バルクデータの送信が終了しました。

美穂 それでは、MDF2の [START/STOP] キーを押して、受信を終了させてください。

鈴木 [START/STOP] キーを押すと、ディスプレイが 01 MDR\_01 という表示に変わりました。これはファイル番号とファイル名が表示されているわけですね。

美穂 そうです。分かりやすく言うと、「01番のファイルに、QY10から送られてきたバルクデータが記録され、「MDR\_01」という名前がついた。」ということになります。

## バルクダンプのまとめ

美穂 QY10の操作をまとめると、操作のポイントは2つだけなんです。

鈴木 その2つって言うのは？

### 《バルクダンプの2つのポイント》

#### ①デバイスナンバーの設定

デバイスナンバーと言うのは、バルクデータ専用のMIDIチャンネルです。でも、難しく考えないで、ここではバルクデータの送受信のON/OFFの設定だと考えてください。とりあえず、デバイスナンバー= all に設定してください。

#### ②送信するデータの種類の選択

一つの機器の中には、たいてい数種類のデータが入っています。(たとえば、QY10ではソングデータとパターンデータが入っています。) そのうち、どのデータを送るのかを選ぶのがここでの設定です。

これは、機種によって違いがありますので、一概には言えません。しかし、難しいことが分からないうちは、全てのデータを送信する [all] とか [all data] などという設定を選ぶようにしましょう。

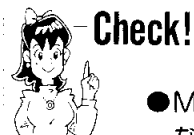
なるほど



美穂 他の機種、たとえばB500やRY30にしても、このポイントさえ押さえれば大丈夫。

鈴木 それは、クイックガイドに書いてありますね。

美穂 ところで、2章の「フロッピーディスクの種類と扱い方について」でお話したように、MDF2が録音中になっているときは、決してディスクを取り出さないで下さい。ドライブが故障したり、ディスクが使えなくなったりします。



### Check!

- MDF2が録音・再生中は、決してディスクを抜かないように!

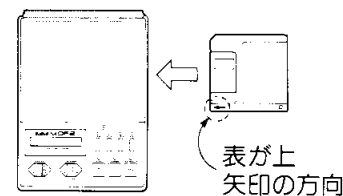
## ファイル名を自分でつける

鈴木 「MDR\_01」なんていう名前はいただけませんね。ファイル名を自分でつける方法を教えてください。

美穂 それでは、ファイル名を変更する操作を説明しましょう。

### 《ファイル名を自分でつける》

- ①フロッピーディスクをドライブに挿入します。

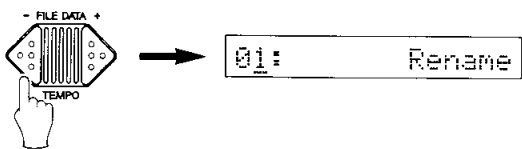


- ② [UTIL] キーを押して、ユーティリティモードに入ります。

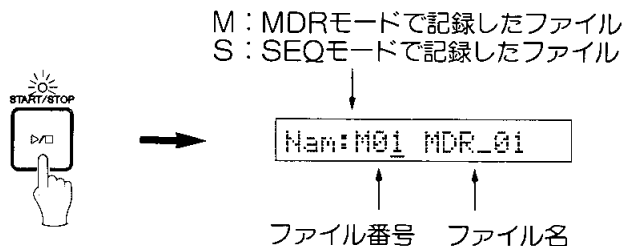


③リネームの画面を出します。

[FILE DATA] キーを何度か押して、リネームの画面を表示させます。

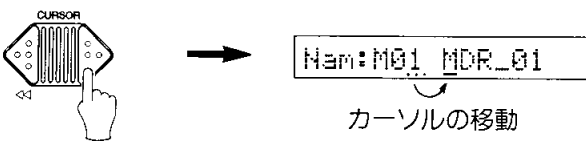


④ [START/STOP] キーを押して、リネームを実行する状態にします。すると、[START/STOP] キーの上のランプが点滅を始めます。この点滅はリネームからぬけるまで続きます。



美穂 この表示の中で、ファイル番号の1という数字の下に、黒い線があるのがわかりますか？これをカーソルと呼んでいます。

鈴木 カーソルの移動は、[CURSOR] キーですね。



⑤リネームするファイルを選びます。

カーソルをファイル番号の下に動かしてから [FILE DATA] キーを押します。すると、データの入っているファイルが順番に表示されます。



鈴木 あれ、[FILE DATA] キーを押してもファイル番号が変わらないな。

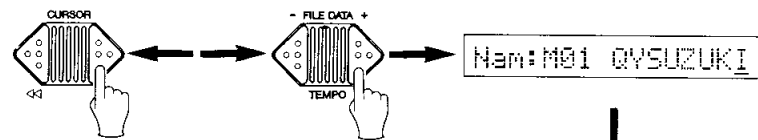
美穂 ほら、今はデータの入っているファイルが1つしかないでしょう。だから、ファイル番号が変わらないんです。

鈴木 じゃ、このファイル番号の左側についているMっていうアルファベットは、どういう意味があるのですか。

美穂 この「M」は、MDRモードで記録したファイルであることを示しています。もし、SEQモードで記録したファイルがディスクの中に入っていれば、この表示は「S」になります。

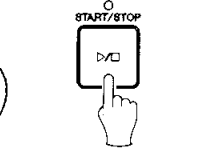
⑥ファイルが選べたら、次にカーソルを文字の方に動かして [FILE DATA] キーを押してください。

好きなアルファベットを表示させて、一文字ごとにカーソルを動かします。こうやって、8文字までのファイル名を自由に付けることができます。名前をつけ終わったら、名前を確定するために [START/STOP] キーを押してください。



カーソルを動かす

名前をつける

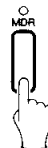


ファイル名の確定

鈴木 どんな名前をつければいんでしょうか。

美穂 たとえばQY10のデータなら最初にQYっていう文字を入れて後は曲名を入れるとかして、後から少しでも分かりやすくなるように工夫してください。

⑦名前を確定したら、[MDR] キーを押してリネームの画面からぬけてください。





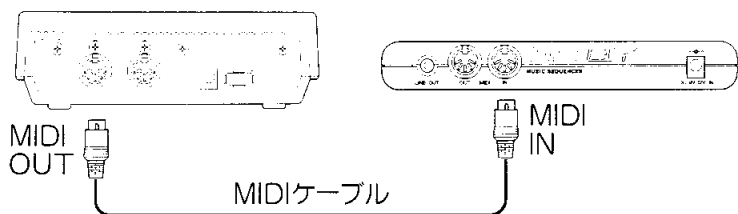
## 保存したデータを QY10に送り返す



### MIDIケーブルをつなぐ

美穂 ここでは、3章で保存したデータをMDF2からQY10に送り返す操作をお教えします。では、まずMIDIの結線をしましょう。

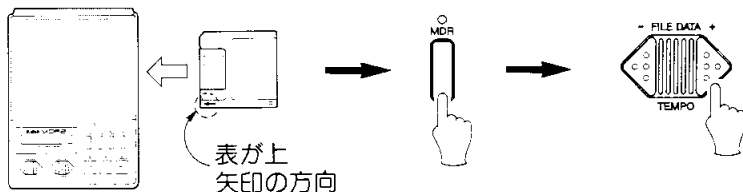
鈴木 MDF2からQY10にデータを送るのだから、MDF2の [MIDI OUT] 端子からQY10の [MIDI IN] 端子ですね。



### 送信するファイルを選ぶ

美穂 それではMDF2の電源スイッチをONにして、フロッピーディスクをセットしましょう。そして、MDRモードに入り、[FILE DATA] キーで送信するファイルを選びます。

鈴木 ファイルネームは、[01 QYSUZUKI] でしたね。



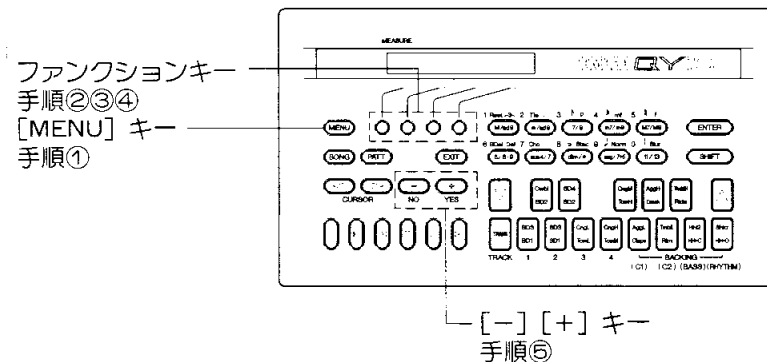
フロッピーディスクを  
挿入する

MDRモードに入り  
ファイルを選ぶ

### QY10にバルクデータを受ける設定にする

美穂 QY10の設定は、デバイスナンバーをallにするだけです。3章でもすでにこの操作はしました。思い出しながら操作をしましょう。

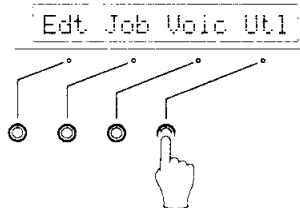
### QY10にバルクデータを受ける設定にする



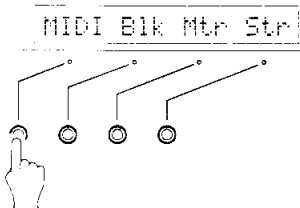
①ソングモードかパターンモードの状態ですべてのファンクションキーを押します。



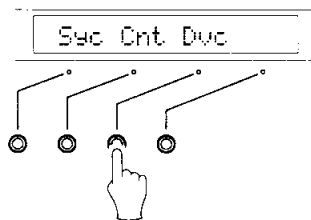
②ディスプレイが下記の表示になったら、一番右のファンクションキーを押して、ユーティリティに入ります。



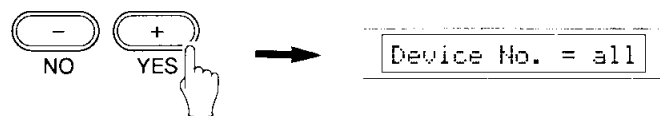
③ディスプレイが下記の表示になったら、一番左のファンクションキーを押して、MIDIのセットアップに入ります。



④ディスプレイが下記の表示になったら、左から3番目のファンクションキーを押して、デバイスナンバーの設定画面に入ります。



⑤ここで、[+] キーを押して [all] という設定にしてください。

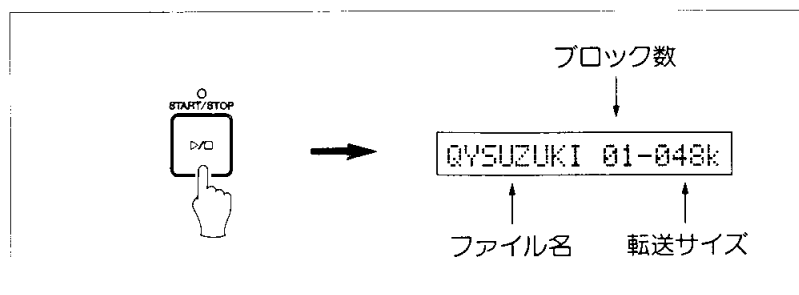


⑥ [SONG] キーを押して、ソングモードにします。



### MDF2からバルクデータを送る

美穂 それでは、MDF2からバルクデータを送信します。MDRモードで送信するファイルが選ばれているか確認し、[START/STOP] キーを押してください。[START/STOP] キーの上のランプが点灯し、ディスプレイが下記の表示になってバルクデータの送信を始めます。



鈴木 しばらくすると、[START/STOP] キーの上のランプが消え、ディスプレイはもとの表示に戻りました。これで、送信は終わったのですね。

美穂 はい。QY10のディスプレイが[Bulk received]という表示になっていれば、データを受け取った証拠です。一度、パターンかソングモードに戻ってデータが入っているかどうかを確認してください。

鈴木 大丈夫のようです。

美穂 QY10はバルクデータを受信すると、それまで入っていたパターンやソングのデータはすべて消えてしまうので注意してください。

### 不用になったファイルを消す

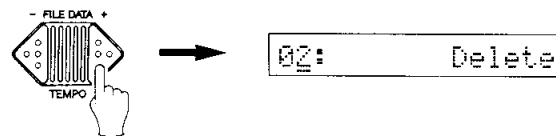
美穂 では次に、ファイルを消す操作をお教えします。

#### 《不用になったファイルを消す》

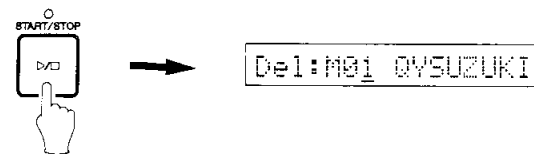
①[UTIL] キーを押してユーティリティモードに入る。



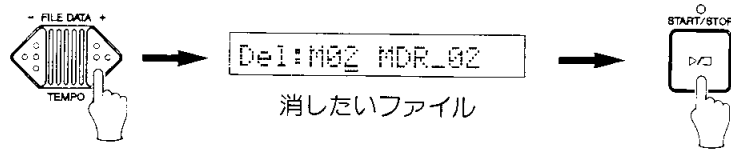
②[FILE DATA]キーを押して、デリートの画面を表示させます。



③[START/STOP] キーを押して、デリートを実行できる状態にします。すると、[START/STOP] キーの上のランプが点滅を始めます。この点滅は、デリートをぬけるまで続きます。



④ [FILE DATA] キーを押して消したいファイルを表示させ、  
[START/STOP] キーを押します。



消したいファイル

ファイル名を  
確認して  
ください。



⑤ [MDR] キーを押して、デリートから抜け出します。



鈴木 [START/STOP] キーを押した途端にファイルが消えてしま  
いますね。

美穂 ですから、間違ってファイルを消してしまわないように、[START  
/STOP] を押す前に必ずもう一度ファイル名を確認してください。



### Check!

- デリートを実行できる状態にすると [START / STOP] キーの上のランプが点滅します。  
[START / STOP] キーを押すと、画面に表示さ  
れているファイルが消えてしまいますので、ご注意  
ください。

## 5章



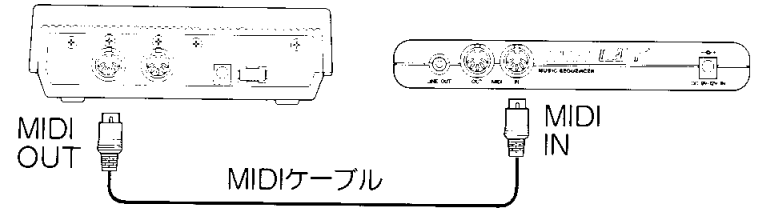
## ピアノプレーヤ用ソフトを 演奏する



美穂 最後に、ピアノプレーヤ用ソフトを演奏させてみましょう。まず、  
MDF2とQY10、そしてピアノプレーヤ用ミュージックソフトを用  
意してください。では、演奏の手順を説明します。

### MIDIケーブルをつなぐ

美穂 MDF2からQY10に演奏データを送るわけだから、MDF2の[MIDI  
OUT] 端子から、QY10の [MIDI IN] 端子にMIDIケーブルを接続  
します。



QY10でデータの入っていないソングを選び、1トラックと2トラックに  
Pianoの音を選んでください。

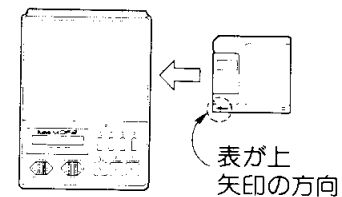
詳しくはQY10の取扱説明書をご参照ください。

### 演奏の開始

美穂 じゃあ、ピアノプレーヤ用ソフトを演奏させてみましょう。

### ピアノプレーヤ用ソフトを演奏する

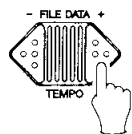
- ① MDF2の電源スイッチをONにします。
- ② ピアノプレーヤ用ソフトをMDF2のドライブに挿入します。



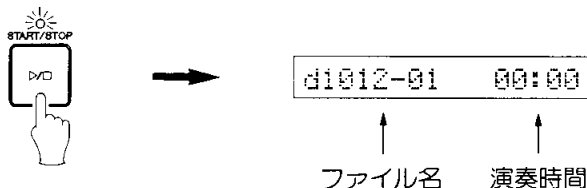
③次に、[SEQ] キーを押してSEQモードに入ります。



④ここで、[FILE DATA] キーで演奏したいファイルを選びます。この時、ファイル番号01番には必ず [01 PIANODIR FIL] というファイルが表示されますが、このファイルは演奏できません。ファイル番号が02番以降のファイルを選んでください。



⑤ファイルが選ばれましたら、[START/STOP] キーを押してください。[START/STOP] キーの上のランプが点灯し、ディスプレイが下記の表示になって演奏が始まります。



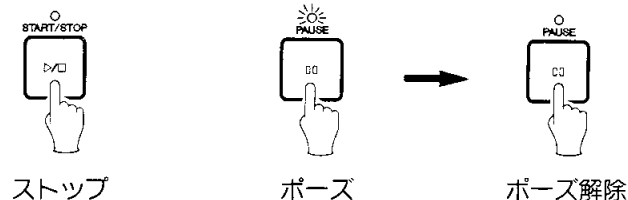
ここで表示される演奏時間は、テンポが♩=120の時の演奏時間です。ピアノプレーヤ用ソフトは♩=117が基準のテンポですので、実際の演奏時間とは一致しません。

また、ファイルの中にはテンポが正しく設定されていないものがあります。演奏のテンポが違っていたら、[FILE DATA] キーを押して♩=117に設定してください。



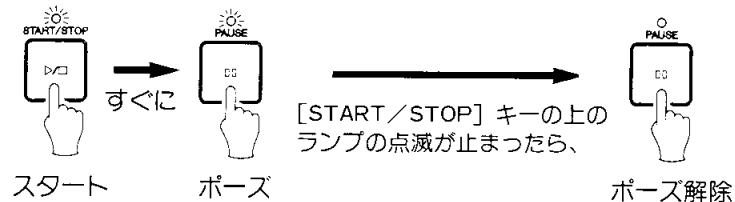
⑥演奏中に再び [START/STOP] キーを押すと、演奏はストップします。

また、演奏中に [PAUSE] キーを押すと、[PAUSE] キーの上のランプが点灯し、演奏が一時中止します。ポーズ状態で再び [PAUSE] キーを押すと、ポーズキーの上のランプは消え演奏が再開されます。



鈴木 [START/STOP] キーを押してから曲が始まるまで、すこし間が開くように感じるんですが。

美穂 MDF2は、一般のシーケンサーのようにソングデータのロードという作業はいりません。そのかわり、演奏中は頻りにフロッピーディスクからデータを読み込んでいます。[START/STOP] キーを押しても、始めに曲のデータをディスクから読み込んでからスタートします。そのぶんだけスタートが遅れるわけです。もし、この遅れが気になるようでしたら、[START/STOP] キーを押してすぐに [PAUSE] キーを押してください。すると、[START/STOP] キーの上のランプが点滅して曲のデータを読み込みます。スタート準備ができると点滅が止まりますので、もう一度[PAUSE] キーを押してください。すると今度は、ジャストのタイミングで曲がスタートします。



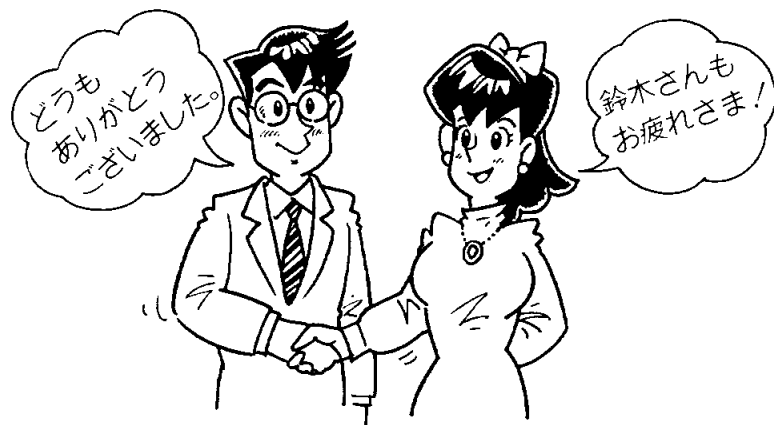
### 音色の設定

美穂 ピアノプレーヤ用のソフトを演奏させる手順は以上で終わりです。後は、QY10でお好みの音色を選んで演奏を楽しんでください。



## 最後に

- 鈴木 どうも長い間ありがとうございました。
- 美穂 鈴木さんもお疲れさま。正直いって、鈴木さんがこんなに頑張られるとは思っていませんでした。
- 鈴木 すべて美穂ちゃんのおかげです。これからは、自分で勉強してみますが、どうしても分からないことがあればまたレッスンしてください。
- 美穂 これから分からないことがあれば、操作でも用語の意味でもオーナーズマニュアルを辞書のように開いて調べてください。ちよつとした操作なら、クイツクガイドも役に立つと思います。では、さようなら。



本書は、MDF 2の基本機能とその操作についてのみ解説したものです。  
本書に書かれていない、いろいろな機能と操作方法等につきましては、「オーナーズマニュアル」をご覧ください。

## ユーザーサポートサービスのご案内

このたびは、ヤマハMDF2をお買い求めいただきましてありがとうございます。  
ヤマハデジタル商品は、常に新技術・高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担と煩わしさを軽減できるような商品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究・改善いたしております。  
しかし、一部の高機能デジタル商品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどの色々な知識や経験を必要としてしまうものがあります。  
実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない。」「手順通りに動作しない。」「記載が見つからない。」といったさまざまな問題が起る場合があります。  
そのようなお客様への一助となるよう弊社では、デジタルインフォメーションセンターを開設いたしております。  
お気軽にご利用いただきますようご案内いたします。

## デジタルインフォメーションセンターについて

ヤマハデジタルインフォメーションセンターでは、デジタル楽器の使用法やトラブルなどについて、電話による質問をお受けいたします。  
お問い合わせの際には、「製品名」、「製造番号」、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」を必ずお知らせください。お客様からの情報が不足している場合は、ご返答できない場合があります。

### ヤマハ デジタル インフォメーションセンター

TEL 03-3770-4486

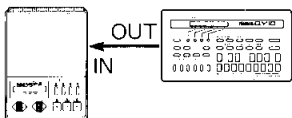
- ◆ 受付日 月曜日～金曜日(祝日および当社の休業日を除く)
- ◆ 受付時間 10:30～13:00 / 14:00～17:00

Function ...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default Channel Changed	1 - 16 1 - 16	1 - 16 1 - 16	*1
Mode Default Messages Altered	x x *****	x x x	*1
Note Number : True voice	0 - 127 *****	0 - 127	*1
Velocity Note ON Note OFF	o 9nH, v=1-127 o 8nH, v=0-127	o v=1-127 o v=0-127	*1
After Key's Touch Ch's	o o	o o	*1
Pitch Bender	o	o	*1
Control Change 0-120	o	o	*1
Prog Change : True #	o 0 - 127 *****	o 0 - 127	*1
System Exclusive	o	o	
System : Song Pos : Song Sel Common : Tune	x x x	x x x	
System :Clock Real Time :Commands	o *2 o *2	o *3 o *2	
Aux :Local ON/OFF :All Notes OFF Mes- :Active Sense sages:Reset	o x o x	o x x x	*1
Notes: *1 = if SEQ mode. *2 = if MIDI control switch is on. *3 = receive clock at MIDI sync mode.			

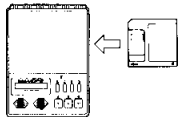
Mode 1 : OMNI ON, POLY      Mode 2 : OMNI ON, MONO      o : Yes  
 Mode 3 : OMNI OFF, POLY    Mode 4 : OMNI OFF, MONO    x : No

## データの受信・保存

- ①MIDIケーブルをつなぐ。
- ②電源スイッチをONにする。



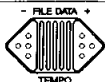
- ③ディスクを挿入する。  
新しいディスクは、フォーマットをしておくこと!!



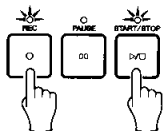
- ④[MDR] キーを押す。



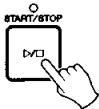
- ⑤データを保存するファイルを選ぶ。  
空のファイルを選ぶこと!!



- ⑥[REC] キーを押しながら、[START/STOP] キーを押す。



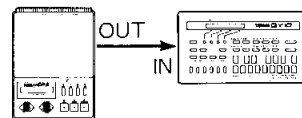
- ⑦MIDI機器からバルクデータを送る。



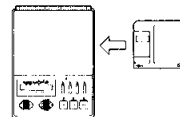
- ⑧送信が終了したら、[START/STOP] キーを押す。

## データの送信

- ①MIDIケーブルをつなぐ。
- ②電源スイッチをONにする。



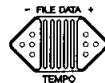
- ③ディスクを挿入する。
- ④MIDI機器のバルクデータ受信の設定をする。  
・デバイスナンバー=all



- ⑤[MDR] キーを押す。



- ⑥送信するファイルを選ぶ。



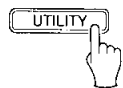
- ⑦[START/STOP] キーを押す。  
送信スタート!!



## 受信の設定

………デバイスナンバーの設定

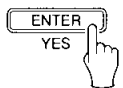
①[UTILITY] キーを押す。



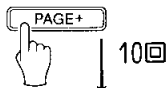
②[PAGE+] キーを2回押して、  
[UTL 03 : MIDI] の表示にする。



③[ENTER] キーを押す。



④[PAGE+] キーを10回押して、  
デバイスナンバーの表示を出す。



UTL>11:DEVICE NUMBER 01

⑤[INC] キーを数回押して、  
デバイスナンバーをALLにする。



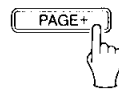
UTL>11:DEVICE NUMBER All

## バルクデータの送信

………バルクダンプ

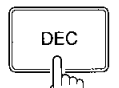
①～⑤は、受信と同じ操作。

⑥[PAGE+] キーを1回押して、  
[TRANSMIT BULK ?]  
という表示にする。



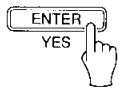
UTL>12:TRANSMIT BULK ?  
Type=UoLog

⑦[DEC] キーを押して、  
タイプをALLにする。



UTL>12:TRANSMIT BULK ?  
Type=All

⑧[ENTER] キーを押すと、  
送信が始まる。



## 受信の設定

………デバイスナンバーの設定

①ソングモードかパターンモードで [MENU] キーを押す。

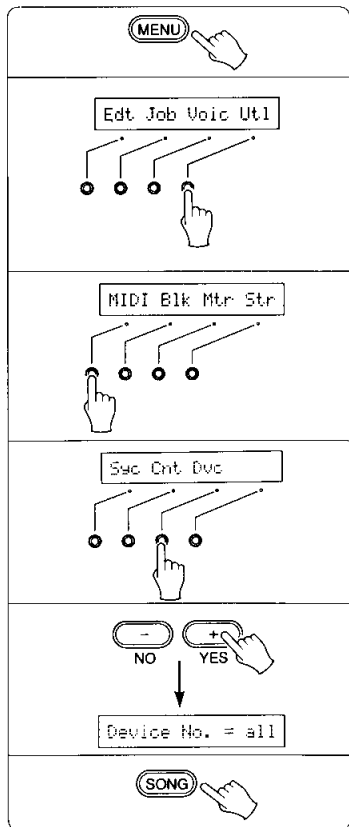
②[Ut1] のボタンを押す。

③[MIDI] のボタンを押す。

④[Dvc] のボタンを押す。

⑤[-]/[+] キーを押して、設定をallにする。

⑥[SONG] キーを押す。



## バルクデータの送信

………バルクダンブ

まず前記の手順でデバイスナンバーをallに設定する。

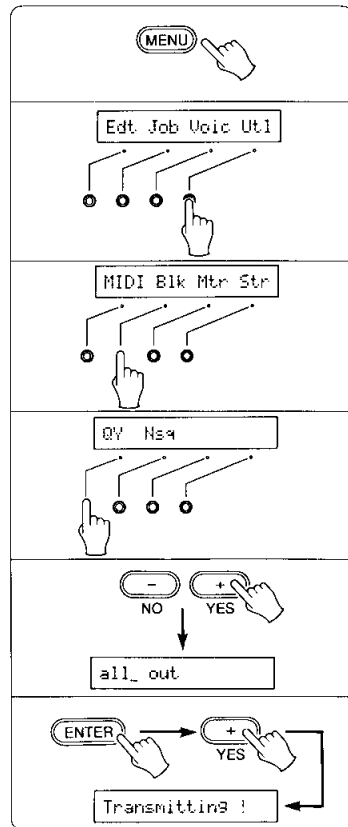
①ソングモードかパターンモードで [MENU] キーを押す。  
②[Ut1] のボタンを押す。

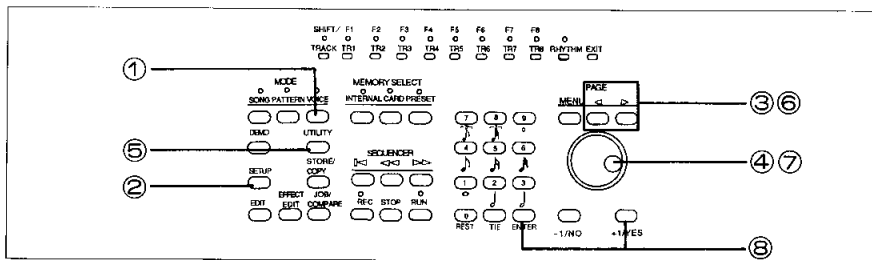
③[BLK] のボタンを押す。

④[QY] のボタンを押す。

⑤[-]/[+] キーを押して、設定をallにする。

⑥[ENTER]キーを押し、[+] キーを押すと送信が始まる。





## 受信の設定

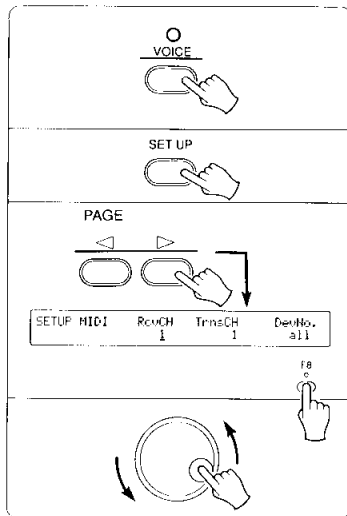
………デバイスナンバーの設定

①[VOICE] キーを押す。

②[SETUP] キーを押す。

③[PAGE] キーの [◀], [▶] で、[SETUP MIDI] の表示にする。

④[F 8] キーを押してから、ダイヤルでデバイスナンバーをallにする。



## バルクデータの送信

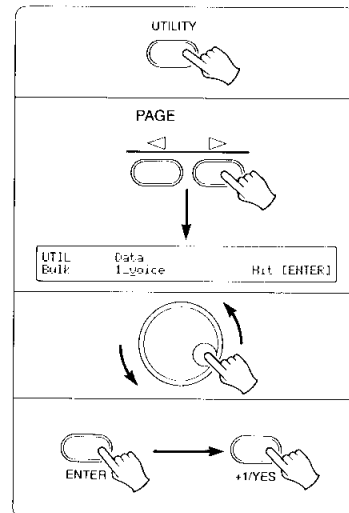
………バルクダンプ

①～④は、受信と同じ操作。  
⑤[UTILITY] キーを押す。

⑥[PAGE] キーの [◀], [▶] で、[Bulk] の表示にする。

⑦送信するバルクの種類をダイヤルで選ぶ。今はallを選ぶ。

⑧[ENTER] キーを押し、[+ / YES] キーを押すと送信が始まる。



## サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年です。(現金、ローン、月賦などによる区分はございません。)また保証は日本国内においてのみ有効といたします。

### ●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

### ●保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1ヶ年間の無償サービスをお約束申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますよう充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認などで便利にご利用いただけます。

### ●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整いたします。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。またお買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは右記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品のことです。)

そのほかご不明な点などございましたら、右記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までお問い合わせください。

### ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お持ち込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064	札幌市中央区南10条西1-1-50	ヤマハセンター内	TEL (011) 513-5036
仙台サービスセンター	〒983	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211	川崎市中原区木月1184		TEL (044) 434-3100
東京サービスステーション*	〒108	東京都港区高輪2-17-11		TEL (03) 5488-6625
*お持ち込み修理のみお取扱い				
浜松サービスセンター	〒435	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06) 877-5262
四国サービスステーション	〒760	高松市丸亀町8-7	ヤマハ(株)高松店内	TEL (0878) 22-3045
広島サービスセンター	〒731-01	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL (082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL (092) 472-2134
[本社]				
カスタマーサービス部	〒435	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL (053) 465-1158

### デジタル楽器に関するお問い合わせ窓口

北海道支店 LM営業課	〒064	札幌市中央区南10条西1-1-50	ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6113
仙台支店 LM営業課	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10		TEL (022) 222-6147
東京支店 第二営業部	〒108	東京都港区高輪2-17-11		TEL (03) 5488-5471
関東支店 LM営業課	〒108	東京都港区高輪2-17-11		TEL (03) 5488-1688
名古屋支店 LM営業課	〒460	名古屋市中区錦1-18-28		TEL (052) 201-5199
大阪支店 LM営業一課	〒542	大阪市中央区南船場3-12-9	心齋橋プラザビル東館	TEL (06) 252-5231
広島支店 LM営業課	〒730	広島市中区紙屋町1-1-18	ヤマハビル	TEL (082) 244-3749
九州支店 LM営業課	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL (092) 472-2130
電子楽器営業部				
デジタルCBX営業課	〒430	浜松市中沢町10-1		TEL (053) 460-2432

●所在地・電話番号などは変更されることがあります。

ヤマハ株式会社